

令和2年度 第1回下呂市総合教育会議 議事録

1. 開催日 令和2年7月28日(火) 開会 午後1時30分 閉会 午後2時30分

2. 開催場所 星雲会館2階 東雲の間

3. 出席者

(1)構成員

市長 山内 登
教育長 細田 芳充
教育委員 小口 晃生
教育委員 富永 京子
教育委員 河尻 明子
教育委員 細江 洋一郎
教育委員 三木 朋哉

(2)市職員

市長公室長	田口 広宣
市長公室企画課課長	大池 隆之
市長公室企画課主査	富士井 美佳
市長公室企画課主査	中島 大樹
教育部長兼教育総務課長	吉田 修
教育部学校教育課長	野尻 康之
教育総務課課長補佐	中川 久美

4. 傍聴人 0人

5. 議事の要旨 別紙のとおり

○大池企画課課長

皆様こんにちは。本日は、大変お忙しい中、そして雨が降ったり止んだりという中ですがお集まり頂きまして、誠にありがとうございます。この会議の後には、引き続き定例教育委員会が開催されると伺っておりますが、それまでどうぞよろしくお願い致します。

私、本日司会を行います企画課の大池と申します。どうかよろしくお願い致します。

本日の出席者の紹介は、お手元にお配りしております名簿にて、ご紹介に代えさせていただきますのでよろしくお願い致します。

それでは、本年度第1回目の下呂市総合教育会議を開催させていただきます。本会議につきましては公開が原則となっております。議事録を作成して公開することとなりますので、ご理解をお願い致します。まず、はじめに市長がごあいさつを申し上げます。

○山内市長あいさつ

こんにちは。本日は大変ご多用の中ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。この会議も平成27年度から開催されておりました、本年で6年目となります。皆様方の中にはもう何年も委員をお勤め頂いておる方もお見えになるということで、また今後ともよろしくお願い致します。今年は昨年からのコロナの関係で学校教育にも大きな影響を与えておりました、今年に入ってからなかなか授業ができない、休業状況が続いたということです。また、今回の7月豪雨で、学校の再開がなかなかできない状況で、昨日も今日も大雨警報が継続しておりますので、益々子どもの教育の進め方について、学校当局やご家庭のみなさんも大きな問題を抱えている状況となっております。これから夏休みに入りますが、これをどのように取り返すか、また各学校がこれから受験シーズンを迎えます。そういう子どもをどのように我々市と、各家庭と、市民が支えていくか、皆様にはいろいろなご意見を賜りたいと思いますのでよろしくお願い致します。また、昨年度策定されました下呂市教育大綱、こちらについてもこのまま継続しまして、内容を変更することなく引き続きしっかりと実行して参りたいと思いますのでどうぞ宜しくお願い致します。本日の協議事項と致しましては2点ございまして、先程申し上げました臨時休業明けの学校生活について、そしてもう1つは金山地域4小学校統合の進捗状況について、この2点について協議をして頂きます。限られた1時間という時間ですが、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。簡単ではございますが、ごあいさつとさせていただきます。よろしくお願い致します。

○大池企画課課長

続きまして、教育長よりごあいさつをお願い致します。

○細田教育長あいさつ

こんにちは。お疲れ様でございます。今日はご参加頂きまして誠にありがとうございます。先程市長からお話がありましたが、今年度は私も今までに経験したことがないような大変な年でありまして、コロナに始まって豪雨ということで、今日はこの総合教育会議で一番大切な子どもたちの命までも脅かすような緊急の事態に対して、今はもちろん今後の対応についてご報告をさせて頂きたいと思っております。2点目について、子どもたちの教育環境という点

では大変大きな変化をもたらします、金山地域4小学校統合についての進捗状況をご説明させて頂きまして、今後の進め方、方向性について忌憚のないご意見を頂きまして、それを参考に今後我々も進めていきたいと思っております。どうかよろしくお願い致します。

○大池企画課課長

ありがとうございました。それでは、早速議題に入りたいと思っております。本日の議題は2つでございます。1つ目と致しまして、「臨時休業明けの学校生活について」。2つ目と致しまして、「金山地域4小学校統合の進捗状況について」でございます。ここからの進行は、この会議の会長である市長にお願いしたいと思っております。

○山内市長

それでは議長を務めさせて頂きます。どうぞよろしくお願い致します。着座のまま失礼でございますが、進行させて頂きます。それでは早速議題に入りますが、1つ目の議題「臨時休業明けの学校生活について」ということで、まず冒頭に教育長から現状の説明をして頂きまして、その後に各委員の皆様へ審議を賜りたいと思っております。先程も申し上げましたとおり、新型コロナウイルスの感染防止として3月3日から始まりました長い臨時休業も終わりました6月からようやく学校も再開致しましたが、またこの7月豪雨で若干滞っている状況であります。コロナ対策のため、以前とは異なった学校生活、よく言われます「with コロナ」という、新たな生活を強いられているわけですが、児童生徒が戸惑うことがないように現場では工夫を凝らして対応して頂いております。また授業計画や行事の見直しなど今までにない対応を講じておるようでございますので、そのあたりについて、教育長から説明をさせて頂きます。お願いします。

○細田教育長

詳細については、後に学校教育課長から説明をさせて頂きます。

経験したことがない長い臨時休業がございまして、思い起こすと2月27日夕方、後程できます金山4小学校統合準備委員会を立ち上げるその日に、安倍首相が全小中学校を臨時休業にするというニュースが飛び込んできました。3ページ以降の資料にありますが、学校再開ガイドラインを基本として対応を行ってまいりました。コロナ対応の新しい生活様式を徹底するということが大切にしてまいりましたが、前回の定例教育委員会で細江委員だったと思っておりますが、「当分の間自粛」の「当分」とはいつまでかという話題を振って頂きましたが、昨今の高校の学校クラスター発生に伴って、できることを広げていく段階ということで、「学校の新しい生活様式」も徐々に国が示す「レベル1」を想定しながら検討を重ねております。そのあたりのことも踏まえて学校教育課長よりご報告をさせて頂きますので、その方向性でよいのかといったご意見を頂ければと思っております。また、7月豪雨に関しましては、資料の9ページに被害状況等の記載があります。特に、登下校の安全面に一番注意を払っている次第であります。そのあたりについてもご意見を頂ければと思っております。それでは、学校教育課長からお願いします。

○野尻学校教育課課長

では、本日お配りした資料の3ページからご覧ください。臨時休業明けの学校生活という表題がついております。教育長が申したとおり、3月以降「徹底する段階」「慣れる段階」ということでコロナ対策をしてきましたが、文科省が6月16日に「学校の新しい生活様式」を出しました。これを受け下呂市でも、下呂市は「レベル1」の地域であるという判断の下、できることを広げていく段階に入っております。それまでは、先生方、子どもたちもコロナ対策を徹底的にやってくれました。よく努力してくれているなど学校訪問をするたびに思いましたが、少しでもできることを広げていきたいということで校長が強いリーダーシップを発揮しながら現在やっております。主な改訂点のみ説明をさせていただきます。1つ目は、集団リスクの回避に関わってですが、これまでは可能な限り子どもたちの間隔、机の間隔を1.5mはとりましょうということでやってきました。ですから、1学級の人数が多いところは体育館や武道場、あるいは学級を空き教室と元の教室の2つに分けて授業を行っていましたが、今は間隔1mが目安となったので、ほぼ通常の間隔で授業をやってもよいということになりました。授業も講義的な授業が中心だったものを、グループやペアで交流することを、対策を十分にした上で行っております。マスクの着用についても、熱中症など健康被害が発生する可能性が高い場合は着用しなくてもよいということを言っておりますし、通学時のマスクについても医師会の助言を頂きながら着用しなくてもよいという通知をしております。続いて、教科指導に関わって、例えば資料にある「②音楽」についても、合唱や管楽器等の演奏は当面の間行わないとなっておりましたが、この6月16日の国の通知を受けてからは間隔をとって十分な換気を行えば実施可能ということで、やれることを広げております。それは理科、美術、図工、技術・家庭、体育についても同じようなことが言えます。部活動についても6月22日から第2段階として、徐々に従来の活動を行えるようになっておりますし、飛騨地区内でしたら合同練習や練習試合を行える形になってきております。4ページをご覧ください。このような状況下において県立学校でクラスターが発生したというニュースが飛び込んできました。この学校における一番の問題点は休日に熱があつたにも関わらず部活の指導を行ったことや、一旦熱が下がって体調が戻ったと判断してその後指導を続けたということです。そして、PCR検査を受けた後、陽性になって初めて管理職に報告したという点が課題となっております。それ以降、下呂市でも7月21日、22日に教職員としての「責任の大きさ」を自覚するようということで通知を出しております。特に、今までは平日に検温してから出勤し、その記録を残すということをしておりましたが、土日についても実施するという形に変えております。また、児童生徒についても土日の検温、特に中学生は部活がある際は健康観察カードを必ず学校に提出するという形に変えております。5ページ以降は後程ご確認いただければと思いますが、前回お示した学校再開ガイドラインを一部改訂しております。以上がコロナに関わる現段階の状況となります。

続いて、豪雨災害について、資料9ページをご覧ください。7月6日～10日までの1週間は大雨警報等の発表により5日間の臨時休業がございました。さらに、翌週の14日と今週の27日、28日の2日間、合計8日間臨時休業となっております。学校施設の被害については、下呂中学校の校庭、小坂小学校のプール一部とピロティの被害、その他として、毎年雨が降ると報告がある雨漏りの被害があります。通学について苦慮しておりますのが、被害の大き

かった小坂地域でございます。小坂小学校は特に湯屋方面からの子どもたちですが、しばらくはバスが通れませんでしたので、サイクリングロードを経由して保護者の送迎を行いました。また、小坂中学校がある長瀬地域も被害がひどかったのも、本来はその地域の子どもたちは歩いて小坂小学校まで通学しておりましたが、危険な箇所があるということで湯屋方面から来るスクールバスに12名を乗せて、現在も登下校を行っております。湯屋方面から来る小坂中学校の生徒たちは、県道通行止めにより保護者の送迎による登下校を行っていましたが、7月21日からはスクールバスで通学しております。馬瀬小学校については、高山方面へのう回路となったために通行量が激増したことにより通学に危険が生じるということで、数河地区の6名についてはスクールバス対応にしております。同じように、尾崎小学校についても県道宮萩原線が高山方面へのう回路となったため通行量が激増したことにより、一部通学路を変更、また山之口のバス通学児童については、バス停まで行く道のりで道路を渡るのが危険ということで、地域の方が学校教育課で配布した黄色のベストを着用し、横断の見守りをして頂いております。また、下呂警察署交通課に行きその時間帯のパトロール強化をお願いしている状況にあります。私どもがこの資料を作成した後で更に、小坂地区内において一部通行止めとなった箇所がありますが、6時から20時までにはガードマンがついて生活に必要な人を通して頂いているので、なんとかスクールバスの通行を可能として頂くこと、また小坂中学校の生徒が通学しますので危険な箇所、具体的には決壊した高天ヶ原谷付近に教員を配置し見守りながらの通学を実施するという事で、この通行止め区間の通学を許可していただいている状況にあります。以上が豪雨被害の状況となります。

先程市長の話にもありましたが、どのように学習保障をするかという点について、前回の定例教育委員会の中では夏休みの12日間授業を実施し、冬休みも2日間授業を実施するという事で、合計14日間長期休業を少なくして学習保障を行うということで対応する予定でしたが、この豪雨で8日間の臨時休業が発生したことから、さらに土曜授業を実施することにしました。各校では原則3回実施しますが、学校によっては回数が4回、5回になる学校もあります。以上です。

○細田教育長

1点追加します。土曜授業のほか、学校によっては7時間授業を実施するところもございます。以上です。

○山内市長

ありがとうございました。それでは委員の皆様からご意見を承りたいと思います、ご感想でもご質問でも結構ですので、どうぞ忌憚のないご意見をお願いします。細江委員、どうぞ。

○細江委員

自分自身が合唱を行ってしまして音楽の授業での合唱は大事だと思いますが、なかなか再開できないということで小学校の音楽会は中止になったという話を聞きました。仕方がないのかなと思いますが、全日本合唱連盟のホームページを見ますと、再開するにあたってのガイドラインがあります。人との間隔や換気など問題がありますので、団員がフェイスガード

を着用して歌う場合もありますし、場合によってはマスクを着用して歌っても発声はできますので、そういった方法を考えながら進めて頂いたらと思います。

○山内市長

ありがとうございました。教育長、どうぞ。

○細田教育長

あまりよくないご報告になりますが、昨日中学校の音楽会も中止ということが中学校長会で決定されました。やはり、当日の交流会館の受入人数を制限していること、またそれ以前に生徒の練習時間を十分に確保できない状況にあるということで、小中ともに音楽会を中止としました。

○細江委員

各学校の合唱祭も中止ということですか。

○細田教育長

いえ、各学校の合唱祭は学校ごとの裁量で判断します。ある学校では外で全員が別の方向を向いて歌えばよいのではというようなアイデアも出ております。

○細江委員

運動会はどうですか。小中学校の運動会は検討中が多かったと思いますが、具体的な検討結果はでておりますか。

○細田教育長

中止という学校は現在ございません。午前中のみ開催や、種目についても身体接触の多い競技、例えば騎馬戦や棒倒しは中止にするなど工夫を行い、縮小傾向で実施する予定です。

○山内市長

その他いかがでしょうか。今回イレギュラーな状態が続いておりますので、どうぞご意見頂ければと思います。富永委員、どうぞ。

○富永委員

今年はコロナに豪雨と、学校がお休みになる日が多いので、市民の方から何う話では、小中の新1年生が心配であるという声が多いです。小学1年生はこども園の名残が、中学1年生は小学校の名残があり、児童生徒全員同じですが、特に新学年に対してこの半年間の遅れをどう対応するのか。6月の終わり頃にある生徒から中学校では卓球部に入部しようと思っていたがまだラケットも買ってない、中体連もないしどうなのかしら・・・という話も聞きました。やはり新1年生への対応を考えていけないと思いません。どうでしょうか。

○山内市長

ありがとうございました。はい、教育長。

○細田教育長

中学1年生は初めての学校生活ではありませんが、小学1年生ですね。本当に心配をしましたが、子どもたちの順応性の高さがすごいなとビックリさせられます。現在、飛騨教育事務所の学校訪問が例年と異なりロングランで行われておりまして、その際にある小学校の1年生の授業を見ましたが、教育事務所の方々も驚いていました。学校再開して2週間の時点でしたが4月から学校に来ているような落ち着きですし、先生の言っていることもわかる状況でした。学校ではそれなりに配慮して指導しております。保護者の方々も不安はあると思いますが、子どもと学校を信じて頂くとしか言えません。特段の方法は持ち合わせておりませんが、4月からやることをもう一度丁寧に6月の再開からやらせて頂いているということを感じて頂くしかないかなと思います。

○山内市長

ありがとうございます。はい、小口委員。

○小口委員

先日、審議会で修学旅行を県内にしたらという話があって、それを聞いて「6年生にとっては京都・奈良に行くことが大事だ」と自分は思いましたが、またこのような状況になると無理だなと思っています。それと同時に、今年の小6と中3の子どもたちにしてみたら思い出に残る行事がいつもと異なるものになっているということで、子どもたちはどんな気持ちでいるんだろうと最近考えております。その反面、先日少年の主張大会がありましたが、参加してくれる子もいるんですね。ここで、細江委員が言われた合唱を自信を持って誇りを持ってやろうとしていることができなくなっている。しかし、現実的には何ともしようがないということで、何とかしてやれないかなと思いますが、苦しいのかなということを感じております。どうしたらよいのか自分もわかりません。ただ、大人になった時に「自分たちは何もできなかったな」と笑って終わればそれにこしたことはないが、そう思えるようにしてあげたいなということは感じております。もう一つは、コロナや豪雨で学校の時間が少なくなったということで、先生方のプレッシャーや勤務時間がどうしても多くなってきていると思います。できるだけ先生方をフォローしていく体制を考えないと苦しいのではないかなと思いながら話を聞いておりました。

○山内市長

ありがとうございました。河尻委員、どうぞ。

○河尻委員

今お話しを伺って、学校でも家庭でもできる範囲の中で、できる限りいろいろなことを経

験させてあげたい、学習させてあげたいという努力をして頂いていることが伝わりました。国や県の発表がある度にいろいろな対応をしていかなければならないということも大変なことだと思えます。子どもたちは「こういうふうになったよ」と言えばそれに従わなければならないし、先生が「今度からはこうなるよ」と言えば「そうなんだ」となりますが、気持ちの中ではやりたいことがいっぱいあったり、行事が中止になったり変化していくことに対して、「こんなことがなければもっとできたのに・・・」という、想いをぶつける先がないのではと感じます。先生であつたり友達だつたり家庭の中での会話でもよいと思えますが、こういった気持ちを正直に打ち明ける機会や場所があるといいと思えます。話をしてすぐ解決する問題ばかりではないと思えますが、話せるような場があり同調をしてもらうだけでもとても安心すると思うので、そういった点も呼びかけて頂ければと思います。

○山内市長

ありがとうございます。野尻課長、どうぞ。

○野尻学校教育課課長

子どもたちの心のケアはとても大事で、心のアンケートの頻度を増やし、月に1回くらいずつ今の心の内を聞くようにしたり、教育相談で子どもたちと向き合って話を聞いたりする時間を設けております。もう1点ですが、このような状況になったが自分たちで考えて「こんなことができるよね」と思えることが非常に大切で、学校ではよく「仕掛け」と言いますが、「仕掛け」を作って子どもたちに考えさせます。例えば、先程教育長がお話したようにある学校では合唱祭について、生徒たちから「先生たちはできないと言うが、学校のグラウンドを使って、階段を観客席に見立てれば合唱祭ができる」という提案が出て、子どもたちから校長に直談判させて校長許可を得るということがありました。自分たちで考えて自分たちでやるということをやっております。先ほど小口委員から行事がどんどん減っているというお話がありましたが、ちょっとでもできる方法を子どもたちにも考えてもらって広げていくという、非常に大事な点だと思います。修学旅行でも「行けないよ」ではなく「一泊二日でも行けるようにするためにどうしたらいい」ということを投げかけて生徒から「大阪や広島が無理なら、伊勢志摩はどうか。そこでも漁村体験はできる」というように変えていたりだとか、少しずつそんな方向が生まれてきております。

○山内市長

はい。それではその他ご意見はどうでしょうか。三木委員、どうぞ。

○三木委員

私は浄土真宗の僧侶ですので、こういう時には清沢満之という僧侶の言葉が思い出されます。状況下では一般的には「人事を尽くして天命を待つ」という言葉がありますが、清沢満之は「天命に安んじて人事を尽くす」という言葉を残しております。「やることをやって、あとはそうなるのを待つ」だけではなく、このような本当に思いもよらない状況、どれだけ正しくてもこうすべきだということができない中で、ではどうするのか、安住することではで

きないので引き受けていくしかないのかなど、ただその中でやれることを模索していくということが今の時代大人に求められていると感じます。自分も子供がおりますので、コロナで長期休業、そして学校再開後の豪雨での休業、このようなメリハリのない中で夏休みを迎えます。先程教育長さんがお話された「順応性」と「メリハリのなさ」のせめぎ合いが、自分の子どもを見ているとその点が心配だなと感じます。一方では、普段では当たり前に行事できない中で、大人がどのようにそのことを伝えていくかというところで、その言葉が良い悪いということではありませんし受け止め方だと思いますが、ある高校野球の監督が今年甲子園が中止になったということで、「このことはきっと君たちのこれからの人生の糧になる」というような言い方をされていましたが、これは関係性ができているからスツとは受け止められないが領けるのかもしれませんが、しかし、子どもの年齢や先生との関係性などから受け止めることができる言葉なのか、やはり結果的には中止となったが、後々になってこの直面していることが人生の糧になったり人間形成の一因になったとしても、今その答えをポンと出すような言葉で子どもを納得させたり、諦めさせたりすることがないようにしたいと親としても思っております。それだけに先程の「天命に安んじて人事を尽くす」という言葉が、私自身には響いている言葉であります。

○山内市長

ありがとうございました。その他はよろしいでしょうか。はい、細江委員。

○細江委員

非常に心配していることですが、飛騨地区については感染者0ということで緊張状態が続いております。もし発生した場合は誹謗中傷やいじめがあってはならないので、これは自然の災害ということで「責任がないんだよ」ということを子どもに教育して頂きたい。実際、可児のクラスターが発生した際は、感染した方の家に張り紙が貼ってあったといいます。そういういじめ的なことが学校で起きないように心のケアをやっていただきたいと思います。

○富永委員

最近修学旅行に行けないから「だめ」とか「かわいそう」と言われることが多いですが表現一つだと思います。いい表現をしたら良くなるということではないですが、だめなものはだめですけど、「だめだよ」と言われるよりも「違うことを探そう」と言うように、表現一つで異なると思います。「これは○でこれは×ですが、○の中からできることを探そう」というように、前向きな表現にして頂きたい。自分の子どもが小さい時にキャンプに行けなかったので山へカセットコンロを持って行きチキンラーメンを食べました。それをキャンプと思って子どもたちは育ちましたが、今思えばそれはそれで楽しかったなと思います。「かわいそう」と思ってやるのではなく「いいことを見つけて楽しいことを探してやりましょう」という方向に変えて頂けたらと思います。

○山内市長

もしコメントがあれば、教育長、どうぞ。

○細田教育長

貴重なご意見を頂きましてありがとうございます。コロナのお陰で改めて学校教育もそうですが広い範囲で考えさせられることが多かったなと思います。「考えること」「作り上げること」「工夫すること」が今まであまりにも「ありき」でやってきたなと思います。子どもの心のケアや心を大切にと言いますが、どこまで考えていたのかなということも改めて考えさせられました。また、今後もお子さんたちの心の内を大事にしながら焦ることなく、追い立てることなく、きっちり丁寧に指導するようにしていきたいなと思います。

修学旅行のことで補足ですが、小学校は保護者会でも相談しており、もうそろそろ最終決断をする時ですが、県内が多くなってきております。しかも飛騨管内もあります。高山、古川、白川郷などアイデアを出す学校もありますし、岐阜市などに場所を変えようかという学校もあります。中学校では、今まで岡山県の漁村体験なんかをしておりましたが、先程学校教育課長が申しおりました伊勢志摩方面に変更という学校もありますし、近県で金沢方面に変更など、若干距離を縮めて計画を立てている学校もあります。

部活動については、中体連は中止となりましたが三市一村の交流会ということで8月1、2日に中体連と飛騨地区校長会で計画を立てておりましたが、ちょうど昨日もいざ発熱があった場合やPCR検査を受ける子がでた場合など対応をもう一度最終シュミレーションし、教育長会でも書類の確認を行いました。このように、万全の対策を講じて実施ということになります。ご承知おきください。

○山内市長

ありがとうございました。コロナの問題、新しい生活様式、学校の授業のやり方もどんどん変わってきております。この問題についてはご意見等まだまだたくさんあると思いますので、学校関係者、教育長、そして私にご意見を賜ればと思いますのでよろしくお願い致します。

それでは、時間の都合もございますので、次の議題に入りたいと思います。よろしいでしょうか。2つ目の議題でございますが「金山地域4小学校統合の進捗状況について」ということでございます。この件についても冒頭に教育長から進捗状況を説明して頂きまして、その後に審議を賜りたいと思います。先月市議会の総務教育民生常任委員会でも報告がありましたが、令和3年4月の統合を目指して統合準備委員会が中心となって着々と準備を進めております。地域の皆様が学校の統合について真剣に考えてみえる中で、市としましても要望があった現実を真摯に受け止めしっかりとサポートしていけるように、これからも様々な課題に対しスピード感を持って判断する必要がありますので、皆様方からのご意見を賜りたいと思います。それでは、教育長より状況説明をお願いします。

○細田教育長

最初に学校教育課長から概略を説明しまして、私から根幹である学校経営について準備委員会または4小学校の校長会で話し合われていることを説明したいと思います。

1年前の7月26日に金山4小学校PTA会長連合会と金山未来を守る会代表の連名で要望書

を私に提出して頂いたことがスタートであります。その後、地域へ出向きましてご説明をさせて頂き同意を得て、議会等にご報告させて頂き、自治会からも一日でも早い実現をと嘆願書の提出があり、子どものことを思うなら一日でも早い統合に踏み切って欲しいという思いを受けて令和3年4月統合に向けて準備を進めておるところでございます。それでは、学校教育課長より概略を説明させていただきます。

○野尻学校教育課課長

資料の10, 11 ページをご覧ください。2月27日に統合準備委員会全体会と第1回部会をそれぞれ開催しまして、それ以降3月から現在に至るまでここに示した各部会において様々な協議をして頂いております。この準備委員会は地域の代表の方や保護者の代表、学校関係者の代表で構成した会でございますが、それとは別に11ページ下段にあるような4小学校と金山中学校教職員で組織する金山支部教育会があります。この中でも教務主任会や生徒指導主事部会などが中心となって、統合に向かうまでの準備と統合後の準備の両面を考えて活動している状況です。コロナの関係もあり、なかなか思うように進まない課題がありながらも、休業を利用して先生方の会合を重ねることもできているというメリットもあるかなと思います。児童間の交流ですが、4つの学校の子どもたちが、本来なら6月から1つの学校に集まって何か活動を共にしたり授業を一緒に行ったりすることを計画されておりましたが、それが秋以降になりました。幸いにも金山4小学校の児童はかなやまこども園で一緒であったため顔なじみであり、他地域の統合に比べると子どもの中での違和感は多少軽減されているかなと思います。参考までに、令和8年までの各学校の児童生徒推移の資料がございます。水色で塗りつぶしてあるところが複式学級になります。黄色は新生「金山小学校」の児童数がこの状態になります。金山だけではなく、ある学校では学年が1人もしくは0人の児童で構成されているという現実には直面しているところであります。以上です。

○山内市長

ありがとうございました。はい、教育長、どうぞ。

○細田教育長

では、補足させていただきます。まず学校の根幹について話し合う学校経営部会ですが、児童や保護者にどんな学校を目指すかというアンケートをとっております。最も多かったのが、仲良くいじめや差別がない学校にしてほしい、楽しい学校、のびのびと過ごせること、地域と繋がりがあり4小学校の良さが活かされる学校にしてほしいという要望があります。そして、大きく2つありますが、ふるさと金山への郷土愛を育みたいという想い、これからの先行き不透明な時代に通じる人づくりということを念頭に置いた学校を目指しております。幸い、学園都市のように、こども園・小学校・中学校の距離が近く、環境的には非常に良いので、学校経営部会でもそのあたりを活かしたいということで「地域とのふれあいを・ふるさと金山への愛着」という枠の中では、こども園では地域に触れさせ金山が大好きという気持ちを作ろう、小学校では大好きな金山から自然やがんばる人々について学び、中学校では学んだことをもとに地域に貢献できる人づくりをする、といった9年と言わず12年間のロング

ランの目標をもって、学校経営の根幹の部分話し合っています。

PTA 部会には、登下校の方法をお任せしておりますが、すでにスクールバスの配車など考えて頂いております。菅田と東方面はスクールバス、下原小より遠い子たちは東方面のバスを下原経由にして利用してもらいます。東については八坂を出発し、南部学校給食センター前で降車し学校まで歩くという意見も出ております。所要時間は 35 分です。菅田は車庫の前を出発し南部学校給食センターで降車すると所要時間約 27 分となります。

校歌・校章部会は、作曲・作詞についてですが、サカナクションという有名なバンドのボーカルである山口一郎さんに作曲をお願いし内諾を得ておまして、山口さんのお父さんである山口保さんが金山出身ということで作詞をお願いしており、親子に作詞・作曲を依頼するという進めております。作曲に皆さんの意見を取り入れることは難しいですが、作詞はすでに校歌に入れたい言葉やフレーズがあればということで募集しております。

閉校・開校記念部会では、閉校の催しについて各学校で検討しております。

広報・協働部会では、第 2 号まで「統合準備委員会だより」が発行されており、住民の方々に進捗状況をお知らせしております。

金山支部教育会では自主的に話し合っており、4 つの学校の財産を繋いでいかないといけないということで、それぞれ長い歴史や伝統・文化があるので新しい金山小学校になっても地域オリエンテーリングを実施し、4 つの地域を全児童が知るという行事を新しく作りまして、1 つの地域のみに向いていた視野を金山町全部に広げることも考えております。

○山内市長

ありがとうございました。残り 10 分ほどになってきましたが、この問題についても各委員から一言ずつでも結構ですのでご意見賜りたいと思います。よろしくお願ひします。河尻委員、どうぞ。

○河尻委員

資料「児童・生徒数の推移」について、新しい金山小学校でも 1 クラスの学年ができてしまうとのことですね。適正規模検討委員会では複数クラスが望ましいというお話しがあったかと思いますが。結果的には 1 クラスになってしまうということですかね。

○細田教育長

適正規模検討委員会では、小学校は 1 学年で 1 学級以上の規模が望ましく、中学校については 1 学年で複数の学級が編成されることが望ましいとなっております。金山小学校については、統合しても 1 クラスになる学年もあります。

○山内市長

その他どうでしょうか。はい、小口委員。

○小口委員

教育長がお話しされた地域オリエンテーリングですが、非常にいいことだと思います。馬

瀬中学校が萩原南中学校と統合した際、地域の方々は子どものためとはいえながらやはり寂しい思いもしておりましたが、萩原の子どもたちが馬瀬で遊んでいる姿、峠を越えてくる姿を見て「いいな」と思う人が増えてきた気がします。金山の統合についても、いろいろな思いを持っている方がいると思いますので、そこで地域オリエンテーリングで子どもたちが一緒になって仲良くする姿を見て頂けることが大切だと思います。地域のみなさんも応援することが具体的に見えることが大事だなと思います。今年も馬瀬の子どもが萩原の子どもと馬瀬川で遊んでいる姿を見て仲良くしている様子が伺えるので、金山もそのようになるといいなと思います。そういう意味でもこの地域オリエンテーリングを大事にしてもらいたいなと思います。

○山内市長

ありがとうございました。はい、三木委員、どうぞ。

○三木委員

今回の災害で小坂地域がひどかったんですが、私の知り合いでも昨日の時点で3家族が中学校に避難してみえたと言いました。夜中の移動で持ち物も最小限であったということで、この時期でも寒かったという声を年配の方から伺いました。空き校舎の活用是件ですが、立地状況にもよりますし、コロナということで今回も市の職員がかなりその対策に苦慮してみえたと言っていますが、あのような災害が発生した際に避難所に特化するようなかたち、例えば教室ごとに分かれてマスクを着用し、公民館ではある程度の人数しか収容できなくても、教室を活用すればある程度間仕切りでプライバシーも守れると思います。ただ、非常時だけに開放するのではなく、行けばある程度の物が揃っており、たとえ1週間避難を余技なくしても全年齢がある程度の安心した生活空間を空き校舎で提供できないかなということを経験したところではあります。以上です。

○吉田教育部長

まさしく今お話し頂いたとおりで、統合後3つの校舎はどうするのかという話も出ております。この問題は教育委員会、体育館は社会体育の施設ということで市民活動推進課、そして振興事務所、また避難所の一面もありますので危機管理課が担当しております。先月担当で集まりましてなんとか残していけないかということで話し合いましたが、普段使用しない施設は結局そのまま残しておけないので、普段使用できるようにしておいて、非常時にそういった活用もできるようなかたちをとれないかと検討しております。1つの例として、菅田と東については公民館活動が活発です。現在使用している公民館は非常に老朽化していますが建て直すことは難しいということで、公民館の機能を空き校舎に移転して普段も使用して頂き、災害の際は避難所として活用できないかという話し合いをしました。今後も地元のみなさんのご意見を伺って内容を詰めていきたいと思っております。

○山内市長

ありがとうございます。その他よろしいでしょうか。はい、小口委員、どうぞ。

○小口委員

避難の件について、最近近所の同世代の方とお話をしましたが、うちの近くの避難所は馬瀬小学校と清流ふれあい会館とありまして、避難の際は、高齢者は清流ふれあい会館へ、若い世代は馬瀬小学校に行くのがよいと話していました。理由を聞くと、清流ふれあい会館には畳があるが、馬瀬小学校体育館は床が固くて高齢者には辛いからということでした。高齢化の中で、避難所として使用できる施設として考えなくてはいけない。ましてや、以前のように密集するのではなく、余裕をもって避難しなくてはいけない。この点については市全体で考えないといけないことだと思います。

○吉田教育部長

馬瀬中学校は電気を残してありますが、本来使用しない施設は電気、水道などは停止しないといけないというところがありまして、そうしないためにも普段何かに活用する手段はないかということで知恵を絞っております。市民の皆さんにもお知恵を頂ければと思います。

○山内市長

はい、富永委員、どうぞ。

○富永委員

私が勤めている施設に高山から通勤している方々が、この豪雨の影響により国道41号線を使用できなくなりました。泊りの仕事がありますので、早朝や遅い時間帯に帰る際せせらぎ街道や県道宮萩原線についても困難が多いということで、職員が宿泊できる施設がないか探しました。四美のキャンプ場などがありますが、なかなか宿泊できるところがないので、一般の方が気軽に宿泊できる施設として開放することも1つのアイデアだと思います。

もう1つは、保育園から高校までずっと同じクラスとなる可能性が高いということです。そうすると筒になってしまうなど、クラス替えもないままずっと一緒というのは苦しいかなと思います。可能かどうかは別として各中学校同士の交流を増やすなど、市内の中でも異なる学校の生徒と触れ合いもできるかなと思います。たくさんの人と接した方が大人になってからいいのではないかと思います。

○山内市長

ありがとうございました。

○小口委員

自分は中学校まで1クラスで同じ仲間、高校で初めてのクラス替えがあったので非常にうれしく思いました。

○山内市長

ありがとうございました。今のご意見も今後の学校運営の参考にさせていただきます。その他

よろしかったでしょうか。お時間がだいぶ迫ってきましたので、頂きましたご意見を今後の学校運営・市政運営に活用していきたいと思えます。ありがとうございました。それでは予定していた時刻となりましたので事務局にお返ししたいと思えます。ご協力ありがとうございました。

○大池企画課課長

ありがとうございました。それではこの後「その他」でござえますが、ただ今の議題以外に何かござえますか。よろしいでしょうか。それでは閉会にあたり閉会の言葉を市長公室長から申し上げます。

○田口市長公室長

市長公室長の田口です。今回は大変お忙し中会議にご出席頂きありがとうございました。昨日、エコツーリズム協議会の中で、この11月に全国大会を下呂市で開催しますが、下呂市の宝もの再発見ということで、最初に子どもたちから上がった下呂市の宝ものは67個でしたが、その後いろいろと話し合いを重ねる中で、2,000以上になったということです。本日皆さんのお話しにもありましたように、子どもたちは子どもたちでいろいろな状況の中で可能性を広げているなど感じました。また、本日皆様方の子どものことを想う姿勢が、自分自身も親として本当にうれしく思いました。本日は大変お忙しい中、また警報が発令されている中でしたが、ご出席頂きましてありがとうございました。これにて終了致します。

14時00分終了